

地域の自然を生かし，多様な自然体験活動や勤労生産体験等を通して，郷土愛や社会性を育む実践

学校教育目標の具現化を図る3つの教育プランを中心に

茨城県常陸太田市立太田小学校

はじめに

本校は，茨城県北部に位置し，佐竹氏の居城「舞鶴城」跡に校舎があり，歴史的な環境や自然に恵まれた中で児童541名が教職員30名とともに学習している。特に今年度は，学校教育目標を達成するために「太田小3つの教育プラン」を中心に教育活動を推進している。その中でも本事業対象の5学年児童（3学級99名）は，年間を通して多彩な体験活動を総合的な学習の時間や特別活動などにおいて主体的に展開している。その特色は，学校の周辺地域の豊かな自然を生かし，多様な自然体験活動や勤労生産体験等を通して，地域の自然や産業及びそれを取り巻く環境等について考察し，常陸太田の教育指針「常陸太田の未来を拓く人」の一つの柱である「郷土を愛し社会につくす人」を育てることである。

1 本校の推進体制

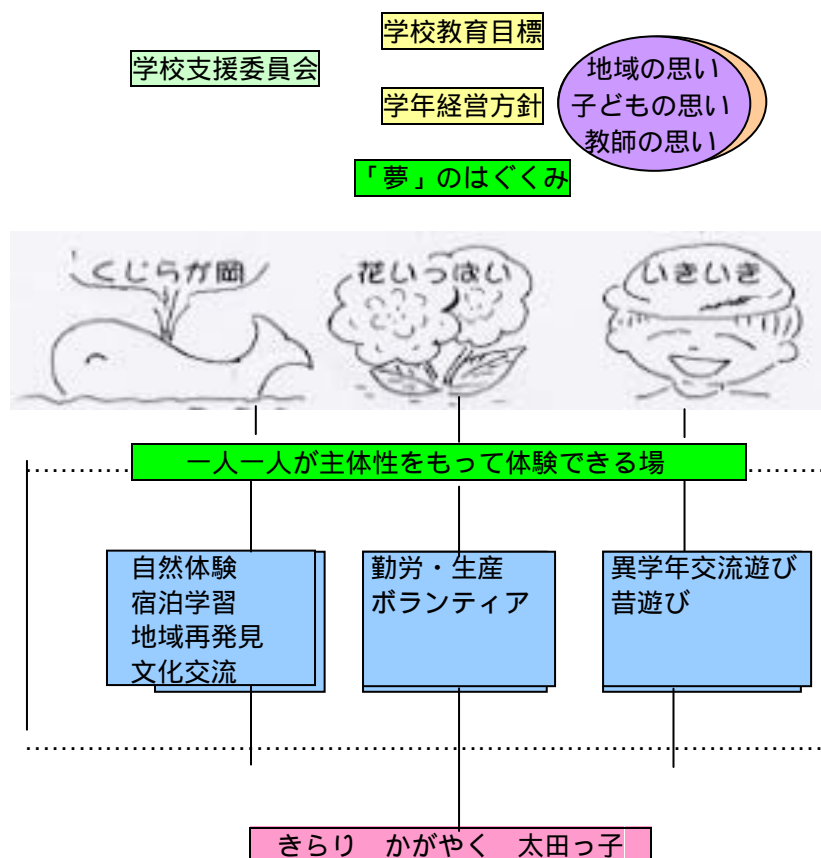
(1) すべては学校教育目標にはじまる

本校の教育目標は，「太田小児童一人一人の『夢』をはぐくむ教育をめざして」
 郷土を愛し，自ら学ぶ児童を育てる。 (ただしく)
 心豊かで，思いやりがある児童を育てる。 (なかよく)
 健康で，たくましい児童を育てる。 (たくましく)

である。上記の教育目標を達成するために，家庭や地域社会と深く連携しながら，次のような3つの教育プランを中心に展開している。5学年の体験活動もこの点を踏まえ，「くじらが岡の発見・体験・チャレンジプラン」や「花いっぱい・うるおい・感動プラン」を中心に推進してきた。

努力事項	具体的な施策（体験活動との重点関連）
1 郷土を愛し，自ら学ぶ児童を育てる。	くじらが岡の発見・体験・チャレンジプラン （郷土を愛し，学ぶ意欲と創造性をはぐくむ学習体験の活性化） 児童一人一人のカリキュラム 基礎・基本の定着と個性の伸長を図る指導の充実 自ら求める家庭学習の指導 多様な学習指導による授業の活性化（TT，少人数）
2 心豊かで，思いやりがある児童を育てる。	花いっぱい・うるおい・感動プラン （豊かな心を育てるための花いっぱい運動の展開） 基本的な生活態度の育成 ・3つの「あ」の励行（あいさつ，あんぜん，あとしまつ） 内面化される道徳性の育成と道徳的体験の重視（奉仕，福祉，愛校活動）
3 健康で，たくましい児童を育てる。	いきいき太田っ子・元気っ子育成プラン （運動の生活化と体力づくりの推進：なかよしタイム・がんばりタイム） 体育の授業の充実 交通安全指導の充実

(2) 全体構想



「生きる力」は生活体験，自然体験など様々な体験活動を通してはぐくまれ，豊かな体験が多い子ほど道徳観や正義感が身に付いている。さらに，子どもの時にいろいろな体験をした子ほど，大人になってからもいろいろな活動（生涯学習）にチャレンジするようになるという結果がでている。

そこで本校では，いろいろな体験活動を取り入れた学習や常陸太田市の歴史や伝統文化，今や昔の生活の様子など郷土についての学習を積極的に展開し，児童一人一人の生きる力を育ててきた。また，常陸太田市の将来や自分の夢を語れるような何事にもチャレンジすることができる郷土を愛する児童を

育成することをめざし推進してきた。5学年の体験活動においても，以上のような点に基づき全体構想をたて，さらに次のような3つの視点を重視し展開した。

- ・ 地域の体験を通して試行錯誤していくプロセスを重視する。
- ・ 児童を企画の段階から参画させるような取り組みにより，自主性を引き出す。
- ・ 児童の心の変化をみとり，大切にす。

2 体験活動内容

児童とともに内容の検討を加えながら実施した主な年間の活動は，次の通りである。

活動名	主な内容	教育課程の位置付け	単位時間	活動場所
JRC活動	一人1ボランティア 小さな親切運動	特別活動	4	校内外
宿泊自然体験学習	現地集合 テント泊・自然体験	特別活動	12	校外
源氏川物語	地域再発見追究学習 源氏川研究室	総合的な学習の時間	24	校内外
花いっぱい・うるおい・感動プラン	一人1プランター栽培 地域へ花のプレゼント	総合的な学習の時間 特別活動	10	校内外
学年合唱	市音楽祭参加 心を一つに	音楽科 特別活動	4	校内外
三世代交流	高齢者等との交流 昔遊び	特別活動 教育課程外	2	校内外

また，体験活動は，学校のみならず学校が休日となる土・日に地域において活発に行われることを期待するところから，本校においては「土・日に元気が出る通信」と

して、土・日に参加できる体験活動の情報を掲載した生涯学習情報紙を発行し、様々な体験活動への参加を推奨している。

3 実践事例

(1) 源氏川物語

ア ねらい

- ・ 我がふるさとの生活環境を見直し、進んで地域の生活環境を改善するための方法を考え、よりよい環境づくりに励む児童を育成する。
- ・ 自然環境の悪化に歯止めをかけるために、児童がその問題を正面から受け止め、自分のできることを考えたり、実践したりすることのできる児童、さらには未来の地球に役立つ人材を育てる。
- ・ 自ら考え、計画を立て、調べ、実践する力を伸ばし、21世紀を力強く生きる力を育成する。



イ 活動内容

常陸太田市の環境改善化政策の一つとしての「蛭のまう街づくり」のプレイ空間である源氏川。そして、児童の遊びの場や市の風景の一部としての源氏川。その源氏川を再発見することから始まり、児童一人一人がより美しく心に残る源氏川の姿を追い求めていく多様な活動へと進展させていく。さらに、地域へ源氏川の様子や環境保全等を発信していく活動内容である。

学習過程	活動名	活 動 内 容
課題発見	源氏川再発見	探索活動： - 源流まで足をのばす -
課題探究	源氏川の秘密	班や個人による追究活動：調査、取材活動
課題発信	源氏川研究室	発表会：各研究室ごとの地域への発信

ウ 活動の実際

15時間にも及ぶ「源氏川再発見」学習によって、29の研究テーマが設定された。具体的には、生き物研究室14テーマ、ゴミ・水研究室8テーマ、歴史・橋・こう水研究室4テーマ、川遊び研究室2テーマ、音研究室1テーマである。この研究テーマに従い、各班や個人が独自の方法で主体的に探究した。たとえば、生物学者への聞き取り調査、市立図書館での地域の文献収集、パックテストによる水質調査、昆虫や植物の採集などである。そしてポスターセッションやペーパーサート、紙芝居、実物展示さらには模擬実験などの工夫した発表により、地域に発信することができた。児童は緊張した表情ながら自ら研究した内容の発表にとっても満足した様子であった。

(2) 花いっぱい・うるおい・感動プラン

ア ねらい

- ・ 美しい学校（地域）環境づくりを通して、公共心、公德心を高めることによって、人や生き物を思いやる心を育てる。
- ・ 栽培活動を通して、労をいとわず、仲良く協力し合いながら、働くことの大切さを理解し、勤労の大切さや責任感を高める。
- ・ 共に汗を流しながら、児童相互、児童と教師の心のふれあいや友情、勤労の喜びを体験させることによって、実践力のある児童を育てる。

イ 活動内容

学校生活など集団生活で一番大切なことは、「生きる力」の一つである「他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性」である。本校では「心豊かで、思いやりのある子」を目指す児童の姿として、心の教育に取り組んでいる。その重点として花いっぱい運動を展開している。

児童と教師、地域が協力しての学校や学校周辺を花いっぱい飾り、花づくりを通して、命の大切さや思いやりの心を育てるとともに、協力や勤労の大切さを学ばせ、花がいっぱい咲いたときの感動を味わわせるために、豊かな心を育てる花いっぱい運動を展開した。5学年としては、次のような活動である。

- ・ 創意ある学年花壇づくり
- ・ 学校周辺の歩道へのプランターの配置
- ・ 敬老者へのプレゼント
- ・ 公共施設への花のプレゼント
- ・ 水まき助け隊への協力



ウ 活動の実際

5学年は、一人1プランターによってマリーゴールドを栽培し、学校周辺の歩道に設置した。今年度の夏は市内でインターハイが実施され、その市内の環境美化にも協力できた。地域の方々から花の手入れや水かけに「ご苦労様」「とてもきれいだね」などの声をもらい、児童の意欲もふくらんだ。

また、市生涯学習センター等の公共機関に育てたサフィニアやマリーゴールドのプランターを寄贈した。苦労して育て、きれいに花が咲いたプランターをプレゼントすることにより、地域の街づくりや環境問題を考える契機にもなった。多くの市民が利用する施設に置かれた花を見るたびに、社会貢献できた喜びや満足感を味わうことができたことと児童の日記にも多く記述されていた。

このような活動を通して、奉仕活動にも関心が深まり、休日の水かけボランティアである「水まき助け隊」に進んで参加する児童もみられるようになった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 地域の豊かな自然を生かした自然体験活動や勤労生産体験等を通して、郷土のよさや課題を理解できた児童が多く見られるようになった。
- ・ 児童相互や児童と教師、さらに児童と地域の人々との体験を通じた心のふれあいや協働学習によって、心豊かな実践力のある児童が育ちつつある。

(2) 課題

- ・ 児童一人一人が主体的に取り組み課題を追究できるように、個に応じた支援や活動内容を検討する必要がある。
- ・ 地域との連携をさらに深め、地域に根ざした体験活動に発展させたい。

終わりに

本校では、地域の豊かな自然や環境を生かした多様な体験活動を実施してきた。このような児童の感性を使った体験活動は、本来、日常の遊びや学びの延長線上で展開されるものである。そのため学習対象や素材を固定的なものにするのではなく、児童にとって開かれた内容にする必要があり、今後も研究を継続したい。